大学を歩く

Today's College Scene

毎週金曜掲載

山口県立大

地域に学び 地域を生かす

気温30度を超す真夏日となった今月1日、山口市の中心商店街で、夏祭りの最後を飾る「もりさま祭り」が開かれた。ハイライトは、山口県立大学の女子学生らによる「女みこし」。少子高齢化による担ぎ手不足から、リヤカーで運ぶしかなかったみこしが、若い力によって再び担がれるようになり3度目の夏を迎えた。

真っ赤な法被にねじりはちまきの女子学生が、肩にかかる重さをものともせず、町内を威勢良く練り歩く。みこしに向かい頭を深々と下げるおじいさん、涙を浮かべて手を合わせるおばあさんの姿が印象的だった。

かけ声を合わせながら、みこしを担いで練り歩く山口県立大の女子学生ら(1日、山口市で)＝秋月正樹撮影

＊祭りを受け継ぐ

女みこしは、同大の「地域共生演習」の一環。「地域が先生」を掲げ、2年前から始まった授業で、学生は田舎とまちで一つずつ実習に取り組む。

「まちでの受け皿を探していたとき、祭りの存続を危ぶむ町内会から、学生の力を借りたいと話があった。世代も職種も様々な地域の人々とかかわることにより、地域の伝統文化だけでなく、自分自身も再発見できると思った」と指導教員の一人、ロバート・シャルコフ准教授(42)が説明する。

リーダーとして、5月から先頭に立ってきた国際文化学科3年の衛藤美嘉さん(20)は、「みんなをまとめるのが大変で悩んだ時期もあった」と話す。「けれど、地域の人々にも支えられながらやり遂げられたのは、一生の宝物です」

昨年履修した文化創造学科2年の村上陽子さん(19)は、祭りのノウハウを伝えるサポートチームの一員として参加した。「自分たちが祭りを楽しみ、その姿を見た地域の人々が元気になれば、それが地域貢献につながる。授業は1度きりだけど、祭りを続けていくため、来年も参加したい」と目を輝かせる。

＊地場産業と共に

同じ山口市にある国立の山口大学に対して、地域との結びつきの深さが「県大」の最大の特徴だ。「地域貢献型大学」と江里健輔(えさけんすけ)学長(70)が言うように、地域共生センターに産学公連携推進、生涯学習、高齢の3部門を設け、地域ニーズに応えようとしている。

ファッションショーで発表する作品を制作する学生たち(2日、山口県立大で)

まちづくりのため、地域資源を生かした服飾デザインを発信するのは、水谷由美子教授(53)の研究室だ。地場産品のデニム素材を使ったデザインコンテストや、山口でキリスト教を布教した宣教師フランシスコ・ザビエルをテーマにしたファッションショーを生地スペインで開くなど様々なプロジェクトを手がける。

環境デザイン学科4年の田辺千寿さん(21)は「デニムファッションで都市と田園を結ぶ」をテーマに卒業制作の真っ最中。来年1月のファッションショーに向け、7点の作品を仕上げ、観客の厳しい評価をあおがなければならない。

「気にくわない個所を直しているうち、怒とうのように時間が過ぎていって…。でも、もの作りだけでなく、ショーの企画や運営も学べるのがここの魅力です」

地域と大学が一体となり、夢と現実を見せながら学生を育てる――。地域貢献という言葉の裏に、そんな教育の醍醐味(だいご)がうかがえた。

(保井隆之)

沿革 前身は1941年に開学した山口県立女子専門学校。山口女子短期大学を経て、75年、4年制の山口女子大学に。96年、男女共学となり、名称を山口県立大学に変えた。山口市のキャンパスに、国際文化(国際文化、文化創造学科)、社会福祉(社会福祉学科)、看護栄養(看護、栄養学科)などがある。学生数は約1400人で、女子学生の比率は約85%。毎年6月の水無月祭で行われる、女子新入生による学科対抗の騎馬戦が、伝統行事として知られている。

講師と院生 両立できた

陶芸家・特別栄誉教授 大和 保男さん 76

家が大学の近くなので、女子学生に囲まれて育ったようなもの。頭がよく、向学心に燃えたおねえさんたちを、小さな頃からあこがれをもって見ていました。

70歳の時、一念発起して大学院に入り、国際文化学を専攻しました。非常勤講師として学生に陶芸制作論などを教える立場でしたし、妻は「県の無形文化財保持者に認定された人がなぜ」と大反対。でも、現役の作家でい続けるためには、たえずチャレンジする精神が必要だと思った。萩焼を収集してくれる海外の人たちに、自分の意図をしっかり説明できるようになりたかったんです。講師と院生との両立を許してくれた固定観念にとらわれない大学の姿勢に好感を持ちました。

学生たちはまじめな子が多く、「使うことを前提に作るのではなく、使わなくてもいいんだ」という私の芸術的造形論を、ピュアな心で受けとめてくれます。学生が、山口から文化を国際的に発信していくためのアドバイスを、これからもしていければと思います。